

## 第75回全国植樹祭埼玉県準備委員会（第3回） 議事概要

日 時：令和4年5月19日（木）10：30～11：50

場 所：県庁本庁舎庁議室（オンライン開催）

出席者：別紙出席者名簿のとおり ※会議資料参照

### 1 挨拶

高柳副知事より挨拶

### 2 議事

本会議を公開とすることが議決された。

#### (1) 第75回全国植樹祭基本構想（素案）について【資料1】

- ・事務局が資料により説明。
- ・委員からの意見を参考にして議事（2）を除いた基本構想（案）が了承された。

#### 【主な意見】

委員： 大変わかりやすく、埼玉県らしい基本構想（案）になったのではないか。

#### (2) 開催候補地の選定について【資料2】【資料3】

- ・事務局が資料により説明。
- ・委員からの意見を参考にして県と開催地市町の役割分担について了承された。
- ・委員からの意見を参考にして基本構想（案）「6 開催会場」の「(1) 式典会場」を「秩父ミュージズパーク」（秩父市・小鹿野町）とすることで了承された。

#### 【主な意見】

##### ①【資料2】について

委員： 県と開催地市町における役割分担を記載した協定を締結する意義は何か。  
また、必要性はあるのか。

全国植樹祭推進幹： 必要な準備は多岐にわたり、業務量が非常に多くなる。混乱が生じないよう円滑に準備を進める必要があるため、あらかじめ県と開催地市町の役割分担をしっかりと定めさせていただき協定を締結するものである。

また、全国植樹祭の開催は、全国から非常に注目を浴び、埼玉県及び開催地市町にとっては魅力発信の絶好の機会となる。効果的・効率的な開催

市町の観光や地場産業等について、ぜひとも地元の皆様にご協力をお願いしたい。

また、締結の必要性については、第75回全国植樹祭をよりよいものにし、成功させるためには、開催地市町の皆様等の円滑な協力が不可欠である。協定を締結することにより、それぞれの役割を分担し、しっかり取り組んでいくことができる。開催候補地に決まった市町には、県として丁寧にご説明して、ご理解をいただいた上で開催の成功に向けて導いていきたい。

②【資料3】について

委員： 秩父ミュージズパークの会場には、野外ステージとテニスコートの2施設あるが、どちらか1施設なのか。それともセットということか。

全国植樹祭推進幹： セットで考えていただき、条件の良い施設があればそちらを利用可能ということも考えられているものである。

委員：○ 評価項目1-(3)-③植樹会場の特記事項に「一部伐採の可能性有り」と記載がある。切ることをマイナスに捉えるのではなく、伐ってきちんと何か使うということも見せていく活動も行事の一つにできればプラスだと思う。

○ いずれの開催地に決まったとしても、ホスト県である埼玉県民がひとつの会場に集まることは難しい。開催当日、植樹祭の様子をウェブで配信するとか、県民だけではなく多くの方がリアルタイムで今開催しているということを自分ごとに捉えていただけることが大事ではないか。苗木のスクールステイをうまく紐付けたりしながら、開催当日、開催場所が離れていても県民が同じ目線でわくわくすることを主題にしてはどうか。

全国植樹祭推進幹： 当日は、県西部に限らず他の地域でもサテライト会場やパブリックビューイングのようなものを設置して県全体で盛り上げていきたい。

委員：○ 埼玉県最大の森林地帯あるいは林業地は秩父になるのではないか。コロナ禍やウクライナ問題などで明らかなように最近、食料をはじめ生活物資など自給率に関心を持つようになってきた。森林についても環境問題に対する評価と同時に、木材生産機能について木材を自給していくという側面、国産材を有効に使っていかねばという関心が、今ま

で以上に高まってきている。

埼玉県は、全体的に全国の人工林と比較して若い林が多く、これからその木材どう使っていくかという政策視点が重要になると思う。埼玉の林業地である秩父の人工林が成熟してきており、これからどう使っていくか、秩父材のアピールも重要になり、埼玉県産ブランド化が形成される必要があるという背景もあるのではないかな。

他の候補地も魅力的だが、秩父には国有林・県有林・市町村有林・私有林があって、古くから林業が営まれてきた背景がある。また、何といても水源地であり、さらには自然公園や神社有林などがあって、県民や国民の憩いの場でもある。ニューノーマル下において新しい森林空間や木材の利用を国民の暮らしの中に位置づけることなどを考えると秩父地域が妥当ではないかな。

- 最近の植樹祭の傾向では、ここ 15 年 20 年ほど前から都市緑化または都市住民に対する等森林のアピールが多く出ている。

ただ、ここ近年、豪雨や洪水等により、治山治水ということも大きくクローズアップされている。その点を考慮すると、木材の利用を含めて秩父での開催がいいのではないかな。首都近郊である埼玉県から木材生産、というアピールするための機会になるのであれば、全国へ向けたアピールになり、県民においても地元埼玉県での木材生産ということに対する意識を高める意味にも繋がるのではないかな。

- 実際に森林がある秩父での開催は良いと思うが、「式典」と「おもてなし」と「植樹」の 3 つの会場があるので、例えばおもてなし広場は森から離れて住む都市部の人に参加しやすい街なかの緑地で展開して、オンラインやサテライトも実施するのはどうか。コロナやセキュリティの課題があるので、1 カ所に集まる人数を減らす観点からも 2 ヶ所、3 ヶ所で開催すると面白いのではないかな。

- 地元の協力体制について、所沢、春日部については商工会議所の地域である。秩父については、商工会議所も誘致組織に参加をして協力している。秩父地域は、林業や森林整備の関連事業者も多く、地域の期待値も高まっている。所沢、春日部については、現時点では商工会議所が直

接関与した具体的な動きはないが、どの候補地になったとしても地元をはじめ、県内商工会議所で協力させていただきたい。

- 秩父には非常に広大な森林があり、埼玉県内に対して非常に貢献している。特に森林を整備することで、水を下流へ流す広大な自然がある。

秩父に来ていただくお客様の中には県内からの方も相当いる。県民の方にもう一度「秩父はこれだけ大事なところだ。秩父を大事にすべきだ。」そう思っていたくためにも、秩父がいいと思う。

- 埼玉県の4分の1を秩父地域で占めており、また市町の関係が築かれていて、協力体制もしっかりできている。

- 秩父の皆さんには、開催へ向けての開催地としての熱意が大変感じられる。県との協力関係を考えた上でも秩父開催が良いのではないか。

- 県として流域でいろいろなイベントを開催して盛り上げることが非常に重要ではないか。秩父だけで盛り上がるのではなく、流域全体で係わるようにしては。植樹祭そのものの意味は、次の世代に向けて豊かな緑を繋げていく、国民全体で守って、つくっていきこう、そういう趣旨がある。したがって、下流域の皆さんをいかに巻き込むかという努力が必要。ぜひ「流域連携」という視点を入れることも考えていただきたい。

- 埼玉らしさを考えた時に、「森林国」秩父地域で植樹祭を執り行い、全国に発信することで、東京からこんなにアクセスがいいところに森林がある、ということを訴え、観光の視点からも多くのお客様の来県を促すという観点から、秩父がいいのかなと思う。

また、森林は水源の発生源であり、秩父の水源の発生源から水が流れて、関東をずっと貫いて都市間で水が繋がっていて、その水を使った産業が多くある。そういったことも含めて、県の産業、物販、物産なども訴えかけやすいのではないか。

(3) その他

- ・第75回全国植樹祭埼玉県実行委員会（仮称）について【資料4】
  - ・事務局が資料により説明。
  - ・第75回全国植樹祭埼玉県実行委員会（仮称）を設立することで了承された。

【主な意見】

委員：○ コロナ禍でオンラインが浸透し、誰とでもどこでも繋がるようになったのは有効である。今回の植樹祭のコンセプトでは、実際に森にみんなに来て目を向けてほしい、という方が重要だが、オンラインを有効に使うことにもぜひチャレンジするといいいのではないか。若い方にも知ってもらいいい機会になるのではないか。

若い方は、インターネット上で動画や画像を見ている方が多い。例えば、森づくりに関する各地の取組を写真や動画で見せるようにして、それを投稿してもらい、みんなで見たり、コンテストをしたりするのはどうか。ボトムアップというか地域に根差した活動をしている方たちを掘り起こすとか、励みになるようなことも使えるのではないか。

- 学校単位でも、秩父地域に森林を植樹しているという動きが複数あるようなので、連携の中に取り込むのも大切なのではないか。